

学校保健

平成17年6月

No. 257

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH(財)日本学校保健会ホームページアドレス
<http://www.hokenkai.or.jp/>

(財)日本学校保健会

会長就任にあたり

(財)日本学校保健会会長 植松治雄



このたび、前矢野亭会長の後任として日本学校保健会の会長を務めることになりました植松と申します。理事、評議員には半数以上の方々の交替がありました。副会長と専務理事の役員は、お一人を除いて全員留任されます。私を含め新役員一同、誠心誠意、日本学校保健会の発展のために仕事をさせて頂く所存ですのでよろしく御指導・御協力の程お願い申し上げます。

ご承知の通り日本学校保健会は、大正9年に財団法人として設立されて以来、実に80数年に渡り、一貫して我が国の子どもたちの健康の保持増進に貢献してきた歴史ある団体であります。今後ともこの理念に基づいた事業の継続は、本会の役割であり、閉ざしてはいけないと考えております。

特に近年の子どもたちを取り巻く社会環境の大きな変化もあって、対応すべき課題も、生活習慣病、エイズ、喫煙及び薬物乱用などをはじめ、子どもの「こころ」の問題に関わる事など多岐にわたっております。これらの問題の所在は、これまでの道徳観や社会秩序等の物差しでは容易に測ることができない状況であり、独り学校のみでの解決は困難となっています。学校、家庭及び地域の3者が相互に連絡しあって、共通の理解を持ち解決のための知恵と一緒に考えることが必要になっております。このためにも子どもが身近に相談する養護教諭等のための体制づくりの指導書作成は急務であると考えております。

また今後、就学前の乳幼児等を対象とした健康についても日本学校保健会として何ができるかを検討することとし、学校における食に関する指導や安全管理の問題なども健康教育の視点から、新たな課題として議論を重ねていく必要性を感じております。

さらに日本学校保健会と加盟団体である学校保健会や関係省庁との関係も事業支援や国の施策に対する協力において、今以上に緊密な連携が必要になります。特に現在、日本学校保健会の財政基盤の確立は、安定した事業運営上、緊急の課題であり、検討を余儀なくされております。加盟団体の皆様のご協力とご支援を得ながら、未来につながる方策を模索したいと考えております。

終わりになりますが、加盟団体と構成団体のご発展と学校保健に携わる皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈りしまして挨拶とします。

目次

会長就任にあたり	1
日本学校保健会八十年史を刊行	2-3
平成17~18年度(財)日本学校保健会の役員	4
「健康教育推進学校表彰事業」について	5
「保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査」について	6-8
栄養教諭制度について	9
Q&A「生活習慣病の若年化」への対策	10
学校保健功労による叙勲受章	
おめでとうございます	11
保健室必需の3冊!	12
平成17年度「学校保健用品・図書等推薦」一覧表	13-14
虎ノ門	15

校長	教頭	保健主事	養護教諭	学校栄養職員	PTA	会長	副会長

日本学校保健会八十年史を刊行

刊行にあたっての挨拶

長年の懸案でありました「日本学校保健会八十年史」(A4・553頁)がこのほど漸く完成いたしました。今から約20年前、「日本学校保健会60年史」(A5・250頁)が故下田巧先生を委員長として発刊されております。この60年史は、なぜか日本医師会から委員が出ていなかったためでしょうか、太平洋戦争後の日本医師会の学校保健活動が、完全に抜けておりました。その他にも2、3の欠落が指摘されておりましたが、今回は全て余すところなく補充させていただいたつもりです。また、60年史から20年の経過の中で、当然補うべきものは補い、その結果として、私からみても、大変完成度の高い年史になったと自負しております。また、学校保健に関わる詳細な年表を付けさせていただきました。これは主として滝澤利行委員、七木田文彦委員の御苦労によるものですが、これから学校保健関係の資料作成の際、貴重な参考となると考えられます。この本の末尾には、佐々木健雄委員から「我々の年史は過去を振り返るだけでなく未来への展望を」というご意見により「21世紀の学校保健の展開に向けて」と題して、編集委員による座談会を開催致しました。

この80年史の完成には、編集委員各位の大変なご努力をいただきました。特に編集委員長の高石昌弘先生のご熱心なご指導を得ましたことを、心から感謝申し上げます。

この80年史が、学校保健関係者にとって必ずや貴重な「座右の書」となるであろうことを御期待申し上げて挨拶と致します。

(財)日本学校保健会前会長 矢野 亨

編纂を終えて

はじめに

完成したばかりの分厚い「日本学校保健会八十年史」を手にしながら、編纂委員会の発足から年史完成までの日々を懐かしく思い出している。関係の皆様のご支援に感謝しつつ、この年史が学校保健領域の多くの人々に役立つことを願い、編纂作業を振り返りながら、その経緯を紹介したいと思う。

編纂の趣旨と経緯

財団法人日本学校保健会は大正9年(1920)に帝國学校衛生会として創設された。その後、多くの名称・寄付行為等の変更を経て、多彩な活動を重ねながら今日に至っている。昭和61年(1986)に刊行された「日本学校保健会60年史」をみると、創設後60年間の活動の歩みが分かる。その後、約20年の歳月が流れ、新しいミレニアム西暦2000年に創設80周年を迎えたことになる。現実の80周年は過ぎていたが、矢野 亨前会長は過去の軌跡を正

八十年史編纂委員会委員長 高石 昌弘

しく記録しておくことの意義を重視して、平成15年9月に「日本学校保健会八十年史」編纂委員会を発足させた。学校保健領域の各界から選ばれた18名の委員による編纂作業が開始されたわけであり、筆者がその委員長を務めることになった。

編纂委員会発足の当初は、60年史以降20年間の推移について記録を加えれば十分と考えていたのだが、委員会の議論を進めていく中で、この際、原点に立ち返って80年の歩みを見直し、新しい視点から日本学校保健会の活動の歴史をまとめておくべきとする意見が高まった。それは十数年後に迎える100周年の作業の基盤として、今こそ可能な限り多くの努力を傾注しておかなければならぬとする委員会の意見が集約されたからである。

従って、編纂委員会の作業は当初の予定を遥かに超えて、多くの時間を要することとなった。委員会の作業は極めて膨大であり、作業を能率的に進めるため、6名による作業小委員会を構成すると共に、年表作成等のために特別の協力者を指名して作業を進めた。その間に日本学校保健会事務

局にも、多大のご努力を頂いたことはいうまでもない。編纂委員会は、最後の確認をするための会合を含め全部で7回に及んでおり、さらに、その間、極めて多くの作業小委員会が開催された。その結果、1年6ヶ月の月日を要したものの550余頁に及ぶ膨大な年史を刊行することができたわけである。

編纂の特性と将来展望のための座談会

年史というものは、過去の経緯を正しく記録して、それぞれの時代を生き抜いた人々の考え方、生き方、感じ方等を活字に示すことにより、その時代の状況を正しく伝え後世に残すという大きな意義をもっていると思う。この意味では日本学校保健会の80年史の歩みをまとめることにより、会の変遷のみでなく、その間における我が国の学校保健全般の動向を後世に残すという特性を持っている。

さらに、編纂委員会の議論の中で、単に過去の沿革を記録するだけでなく、これらの歴史に基づいて現状を踏まえた将来展望についても示してお

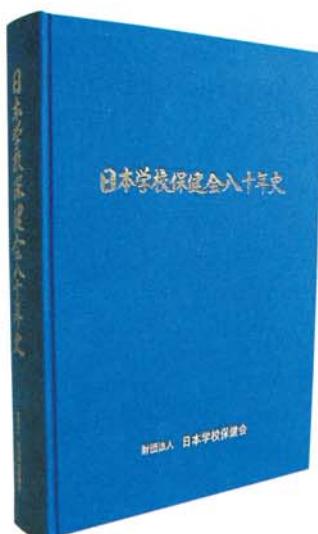
くべきとの意見が出され、「新たな学校保健の課題と日本学校保健会」と題する一編を座談会記録の形式で年史の最後に添えることができた点も本年史の特性である。

作業小委員会の努力

編纂作業を進める上で作業小委員会の努力は大変なものであった。資料の収集・整理・確認等の作業に基づき、原稿の整理・校正等の作業が必要となる。小委員会は最終段階で全員宿泊による確認作業を行った。某日の午後から夜の11時、さらに翌日の夕刻までという連続作業は苦しいものであったが、今になって思えば、よい思い出の一齣である。

おわりに

本年史刊行については、前会長はじめ編纂委員、小委員、そして執筆者、事務局と極めて多くの人々のご協力を頂いた。改めて深く謝意を表し、この年史が今後の学校保健の発展に大きく寄与することを心から念じて止まない。



定 価 9,500円（税込み、送料込み）

内 容

- 第1編 概況
- 第2編 帝国学校衛生会の成立とその組織及び運営
- 第3編 日本学校保健会の成立と発展
- 第4編 財政
- 第5編 関係団体の沿革と日本学校保健会
- 第6編 加盟学校保健会の推移と現状
- 第7編 新たな学校保健の課題と日本学校保健会
- 資 料 会則等の変遷及び年表(明治元年～平成12年)

購入申込み及び問い合わせ先

- 購入申し込み先 財団法人日本学校保健会 担当 原田
- 申しこみ方法 FAX 03-3592-3898
- インターネット注文 <http://www.hokenkai.or.jp/>
- 購入問い合わせ TEL 03-3501-3785

平成17~18年度 (財)日本学校保健会の役員

5月30日の評議員会において、平成17~18年度の(財)日本学校保健会の役員が下記の通りに承認され決定いたしました。

会長

植松 治雄 日本医師会会长

副会長

雪下 國雄 日本医師会常任理事
 若林 明 大阪府医師会代議員会議長
 森本 基 日本学校歯科医会副会長
 杉下順一郎 日本学校薬剤師会会长

専務理事

内藤 昭三 日本学校保健会専務理事

理事 ◎印…常務理事

(加盟団体より)

飯塚 弘志 (財) 北海道学校保健会会长
 もろ
師 研也 宮城県学校保健会会长
 ◎唐澤 祥人 (財) 東京都学校保健会会长
 吉原 忠男 埼玉県学校保健会会长
 ゆう
結城 瑛 新潟県学校保健会会长
 梅田 俊彦 石川研学校保健会会长
 前田 社郎 和歌山県学校保健会会长
 小西 真 滋賀県学校保健会会长
 藤原 淳 山口県学校保健連合会会长
 竹村 鴨文 高知県学校保健会会长
 ◎秦 喜八郎 宮崎県学校保健会会长
 千田 典男 仙台市学校保健会会长
 田辺 誠 川崎市学校保健会会长

(職域より)

内藤 昭三 学識経験者
 ◎高石 昌弘 学識経験者

◎實成 文彦	学識経験者
三宅 謙作	日本眼科医会会长
神田 敬	日本耳鼻咽喉科学会
◎中田 郁平	日本学校歯科医会専務理事
◎小川 善雄	日本学校薬剤師会副会長
山崎 千秋	全国連合小学校長会
◎山村幸太郎	全日本中学校長会
上原 健夫	全国高等学校校長会
◎小嶋 保廣	全国学校保健主事会会长
◎安藤 節子	全国養護教諭連絡協議会
赤田 英博	日本PTA全国協議会会长
松本ふさ江	全国学校栄養士協議会理事

監事

富永 孝	学校医
小林 菊生	日本学校歯科医会監事
三上 俊一	日本学校薬剤師会副会長

名誉会長

矢野 亨 前 日本学校保健会会长

顧問

山中 正一	元副会長
重田 精一	元副会長
松尾 学	元副会長
澤村 良二	元副会長



「健康教育推進学校表彰事業」について

平成14年度より実施しております標記事業も、今年度で4回目を迎えます。昨年度は全国より82校の応募があり、年毎に充実してまいりました。今年度はさらに多くの積極的なご応募をお待ちしております。

平成17年度健康教育推進学校表彰事業実施要項

平成17年4月11日

1. 趣旨

学校現場では、いじめ、虐待、不登校、性の問題、喫煙・飲酒・薬物乱用や生活習慣病の兆候など多くの健康課題を抱えている。このような心や体の健康問題は、校内の推進体制の確立のみならず、学校保健委員会を中心とする学校と家庭・地域社会との連携による地域ぐるみの取り組みが必要である。

このような観点から、学校における健康問題を中心として、健康教育の推進に積極的に取り組み、成果を挙げている学校を表彰し、学校保健の充実に寄与する。

2. 主催

財団法人 日本学校保健会

3. 後援

(予定) 文部科学省・厚生労働省・(社)日本医師会・(社)日本学校歯科医会・日本学校薬剤師会・全国連合小学校長会・全日本中学校長会・全国高等学校長協会・全国特別支援教育推進連盟・全国学校保健主事会・全国養護教諭連絡協議会・(社)日本PTA全国協議会・(社)全国学校栄養士協議会

4. 協賛

P&G

5. 表彰式の期日及び場所

平成18年2月16日(木) 10:00~

場所：日本医師会館大講堂

6. 表彰の対象

国公私立の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校

7. 被表彰候補校の推薦

(1) 応募する学校は、健康教育推進学校活動

状況調査票(別紙様式2、以下「調査票」という)に健康教育推進活動の要点を記入し、都道府県学校保健(連合)会及び政令指定都市学校保健会に提出する。

保健会は、次に定める推薦数並びに基準によって被推薦校の推薦を行い、調査票に健康教育推進学校表彰推薦書(別紙様式1)を添えて、日本学校保健会に提出する。

- 1) 推薦数 都道府県 3校以内(東京都は5校以内)
政令指定都市 2校以内
- 2) 推薦の基準

保健教育、保健管理及び組織活動を内容とする学校保健(安全)計画が適切に実践され、その中で具体的な健康課題(食に関する指導を含む。)について学校・家庭・地域社会が連携し、解決に向けて成果を挙げている学校。但し、過去3年間連続して推薦された学校にあっては1年間をにおいて推薦するものとする。

8. 推薦書等の提出

提出期限は、前年度までの実績により、当該年度の8月末日までとする。この場合、審査の参考にするため、実践例のビデオ等の提出を求めることがある。

9. 審査の方法

各学校保健会から推薦された学校について、学識経験者等による審査会を設けて審査を行い、最優秀校、優秀校、優良校等を決定する。審査は、書類による1次審査、ビデオ等による2次審査及び必要に応じ、実地審査による。

10. 表彰の方法

表彰式は、当該年度に開催される学校保健センター事業報告会において、(財)日本学校保健会会长の表彰状を授与して行う。表彰式に併せて研究発表・シンポジウムを開催するほか、報告書を刊行し、学校保健活動の普及・充実を図る。

「保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査」について

保健学習推進委員会 前委員長 和唐 正勝

1. はじめに

「生きる力」を育てる保健学習の開発がのぞまれている。前回の「保健学習推進委員会」では、小学校、中学校学習指導要領(平成10年12月告示)及び高等学校学習指導要領(平成11年3月告示)に基づく保健学習の進め方について研究を行い、「3・4年生から始める小学校保健学習のプラン」、「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」、「意志決定・行動選択の力を育てる高等学校保健学習のプラン」を作成し、保健学習の実践に活用されるようにした。

今回の本委員会では、それをさらにすすめ、指導と評価の一体化を目指した保健学習のプランを「小学校保健学習の指導と評価」、「中学校保健学習の指導と評価」及び「高等学校保健学習の指導と評価」として作成・出版するともに、「保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査」を全国規模で実施し、保健学習の実態とその課題についての研究を行った。本稿では、この実態調査について報告する。

2. 「保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査」の概要

(1) 調査内容の構成と対象

調査は、次の三つの内容から構成した。

- ①児童生徒に対して、保健学習内容の実現の状況を明らかにする保健学習の実現状況の調査。
- ②児童生徒及び保健担当教員に対して、保健学

習への意識や取り組みの状況を明らかにする保健学習への意識等の調査。

- ③保護者に対して、保健学習の必要性(ニーズ)や期待を明らかにする保健学習の必要性(ニーズ)の調査。

本調査で対象とした者の有効回答数は、児童生徒18,577人、教師1,534人、保護者15,634人であった。

(2) 児童生徒調査の結果

児童生徒に対する保健学習の実現状況及び保健学習への意識の調査対象は、小学校5年生、中学校1年生、高等学校1年生 及び 3年生とした。保健学習の実現状況の調査は、学習指導要領に示された内容を踏まえた小・中・高に個別の「個別テスト問題」と、それ以外の内容をも含む小・中・高に共通の「共通テスト問題」を作成し、児童生徒の保健の知識・理解及び思考・判断の習得の状況を把握した。

学習指導要領に準拠した「個別テスト問題」の全問題の平均正答率を見ると、小学校3・4年の保健の内容をテストした小学校5年生で約84%、小学校5・6年の内容をテストした中学1年生で65%、中学校の保健の内容をテストした高校1年生で62%、高校の保健の内容をテストした高校3年生で57%であり、いずれの学年でも女子の正答率が高かった。(図1)ーP(8)参照

また、小・中・高共通の「共通テスト問題」では、小学校から中・高と学年が進むにつれて正

答率が上がる「室内の換気の仕方」などの項目と、逆に、小学校から中・高と学年が進むにつれて正答率が下がる「鼻出血の応急手当」の項目、小学校から正答率が高く中・高でも高率を示す「喫煙の体への影響」などの項目の三つのパターンが見られた。(ちなみに、鼻出血の手当は、現行学習指導要領で導入された小学校5年生の学習内容である。) (図2)ーP(8)参照

保健学習に対する児童生徒の意識を見ると、保健の学習は「大切だ」「健康な生活を送るために重要だ」との肯定的回答は、どの学年も8割前後の高い値を示していたものの、保健の学習が「好き」あるいは「楽しい」との肯定的回答は、小学校5年生で約5割と最も高く、中学校で約3割、高等学校で約3~4割と低下しており、この間に落差がみられた。

さらに、児童生徒の保健の学習意欲、ペーパーテストの正答状況、経験した保健学習の自己評価、日常生活における実施状況、健康の価値の認知等とその関連についても構造モデルを用いて検証した。その結果、小・中・高を通して、児童生徒は考えたり工夫したり、内容が理解できたり、好きだと思えるような保健学習を通して、学習内容に関する知識・理解や思考・判断を高めることができると共に、保健学習に対する感情、価値、期待で構成される保健の学習意欲を高めることができ、健康の価値の認知や日常生活での実践状況を良好にすることが推察できた。

(3) 教師調査の結果

教師調査で保健学習の実施状況を見ると、いわゆる「晴天体育・雨降り保健」は少ないものの、保健学習の内容を「ほぼ予定通り」実施できたのが小学校・高校で6割強、中学校では5割であった。

また、教師の保健への指導意欲とその関連要因を構造モデルで検討すると、保健学習の指導意欲の高い教師は、指導する際の準備、適切な評価、指導方法の工夫などが良好であり、その指導意欲は、保健学習に熱心な教師仲間がいること、有用な教材や教具が容易に利用できることなどの状況や養成の過程での保健科教育法等の履修などの影響を受けることが示され、教師の指導意欲を高める上で効果的な方略が示唆された。

(4) 保護者調査の結果

保護者の保健授業への关心や授業参観の経験を学年別に見ると、低学年の保護者ほど高かった。また、「保健の授業は学校教育の中で大切だ」に肯定的回答をした保護者は96~97%を占めていた。

保健の授業への要望を、「ぜひ教えてほしい」という回答率が6割をこえた内容から見ると、「喫煙・飲酒・薬物乱用」、「思春期の体の変化」、「体の発育・発達」、「感染症」、「妊娠や避妊法」、「健康の考え方・大切さ」、「応急手当の意義・方法」、「不安・悩み・ストレス」であった。各学年の保護者の要望は、実際に学習指導要領で示されている学年での内容とよく一致していた。

(表1)ーP(8)参照

3. おわりに

本委員会が実施した、「保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査」は、他に例のない大規模かつ総合的なものであり、歴史的な調査といえる。その貴重な成果を、今後の保健学習の改善・推進にどう生かすかが今後の課題である。また、今後この調査が定期的に実施されることにより、保健学習の現状の定点調査が可能となると考えられる。それに耐えうる適切な調査項目(「問題」など)の開発(修正)も今後の課題である。

図 1

問題別の正答率

■：主に思考・判断 それ以外は、主に知識・理解について問う項目

男女差 * p<0.05

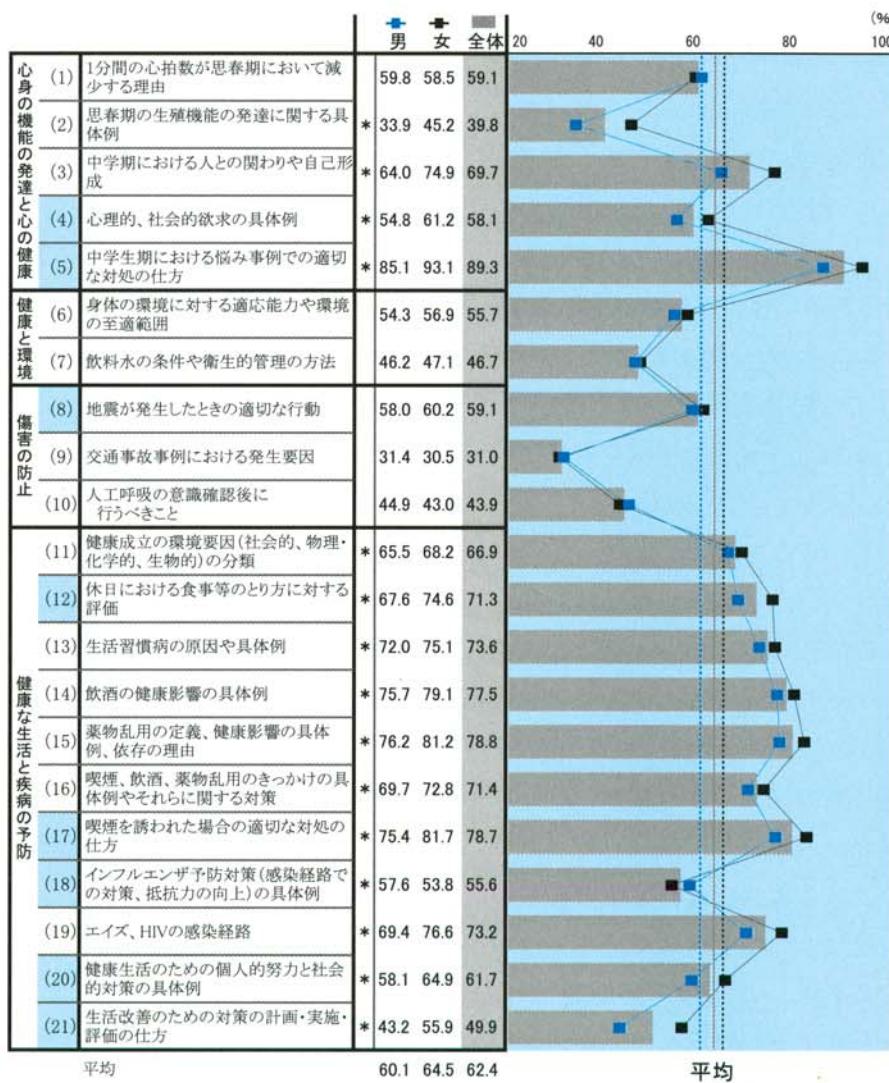


図 2

鼻出血の応急手当

(3) 鼻血が出たとき、まず、どのような手あてをしたらよいでしょう。正しい手あてのしかたを1つ選んで、その番号に○をつけてください。

1. 上を向く。
2. 首の後ろを軽くたたく。
3. 鼻にティッシュペーパーをつめる。
4. 鼻をつまんでじっとしている。

	n	<正答率>				計			
		1	2	3	4				
小	2,246	19.7	5.1	30.8	44.0	0.1	0.3	100	*
5	2,142	16.9	5.2	23.7	54.0	0.1	0.1	100	
全体会	4,388	18.3	5.1	27.3	48.9	0.1	0.2	100	
中	2,282	23.5	7.6	28.5	39.8	0.2	0.4	100	*
1	2,195	22.6	8.2	21.8	46.9	0.3	0.1	100	
全体	4,477	23.1	7.9	25.2	43.3	0.2	0.2	100	
高	2,370	24.1	11.4	28.3	36.1	0.1	0.0	100	*
1	2,610	25.7	11.9	22.2	40.0	0.1	0.1	100	
全体	4,980	25.0	11.7	25.1	38.1	0.1	0.0	100	
高	2,253	26.6	10.3	29.7	32.9	0.3	0.1	100	*
3	2,479	25.4	10.5	25.7	38.2	0.1	0.1	100	
全体会	4,732	26.0	10.4	27.6	35.7	0.2	0.1	100	

男女差 * p<0.05

男女別学年間差：男 p<0.05, 女 p<0.05

+ (残差分析)

表 1

保護者の保健学習の内容に関する要望（学年別）

—「ぜひ教えてほしい」の回答率—

	小学5年	中学1年	高校1年	高校3年
①健康の考え方・大切さ	70.8	66.1	62.6	64.9
②食生活	58.8	55.8	54.6	57.3
③運動習慣	53.8	50.9	49.4	51.6
④睡眠などの休養	51.5	49.2	47.5	48.6
⑤体の発育・発達	78.8	75.5	67.3	68.1
⑥思春期の体の変化	80.1	77.5	71.3	71.4
⑦妊娠や避妊法	60.7	67.6	69.1	69.6
⑧感染症	63.5	70.9	72.0	73.3
⑨生活習慣病	55.4	57.8	58.3	61.1
⑩むし歯や歯周病	59.8	51.2	48.0	50.4
⑪喫煙・飲酒・薬物乱用	72.1	78.3	77.8	77.3
⑫けがの防止	49.2	42.2	40.9	42.5
⑬交通安全	60.6	43.8	40.9	45.1
⑭応急手当の意義・方法	61.2	65.0	64.4	65.9
⑮不安・悩み、ストレス	59.1	62.3	60.2	60.6
⑯環境と健康	44.7	42.3	42.2	45.4
⑰食品の安全	44.3	42.1	44.1	48.6
⑱保健・医療機関	35.1	35.9	40.1	44.0

下線は、4つの学年中最も回答率が高い数値を示す

栄養教諭制度について

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課

緒方 佐与

朝食欠食などの子どもたちの食生活の乱れや、肥満傾向の増大など子どもたちの食生活について懸念される事項が増大している。また、食を通じた地域の理解や食文化の継承を望む声も高まっている。

このような現状に対応するため、学校においても食育を推進することが重要な課題となってきている。このため、学校での指導体制を整備するため、昨年5月に通常国会において、「学校教育法等の一部を改正する法律」が、全会一致で成立し、栄養教諭制度が創設され、この4月から開始されたところである。

栄養教諭は、学校における食育推進の中核的な役割を担うものとして創設されたものであり、今後、地域の実情に応じて、各学校に配置されていくことが望まれる。

栄養教諭の職務としては、学校給食を生きた教材として活用し、実際に「食べる」という行為を通じた効果的な食に関する指導を行うことが期待されることから、食に関する指導と学校給食の管理を一体のものとして担うこととされている。食に関する指導においては、①偏食傾向や食物アレルギー等のある児童生徒に対する指導・助言及び保護者に対する助言を含む家庭への支援などの個別的な相談指導、②教科・特別活動等の時間において、専門性を発揮しつつ学級担任や教科担任と連携して行う教育指導、③専門性を活かした学校の内外を通じた食に関する教育のコーディネーターとしての役割を果たすこととされている。また、栄養管理や衛生管理など学校給食の管理について

も栄養教諭の主要な職務の柱の一つとして位置付けられ、より一層の積極的な取組が期待される。

このように、栄養教諭には、栄養に関する専門性と教職に関する専門性が求められるため、それらの資質能力を制度的に担保するために栄養教諭の免許状が創設され、原則として大学で養成されることとされている。

また、現職の学校栄養職員が栄養教諭免許状を取得する場合、基礎資格を備え、学校栄養職員としての一定の在職年数と大学や都道府県教育委員会が実施する免許法認定講習等における単位修得により、都道府県教育委員会が行う教育職員検定を経て栄養教諭免許状を取得できる特例措置が設けられている。この特例措置を活用し、この4月から福井県と高知県に早くも栄養教諭が配置され、栄養教諭を中心とした指導が開始されたところである。

学校における食育は、豊かな人間性、健康や体力といった「生きる力」をはぐくむ健康教育の一環として極めて重要な役割を果たすものであると考えられ、栄養教諭制度を活用しつつ、学校、家庭、地域が一体となって推進していくことが重要である。



Q&A**「生活習慣病の若年化」への対策：食生活の観点から**

お茶の水女子大学教授・生活環境研究センター長 近藤 和雄

Q 最近、肥満や高脂血症の若年化が進んでいます。食生活での注意点を教えてください。

A (1) 肥満や生活習慣病が若年化している背景

最近の調査によれば学齢期肥満が顕著に増加していますが、肥満や生活習慣病が若年化している背景には、日本人の食生活の変化、とりわけ脂肪の摂取量が大きく増加していることがあります。脂肪をとり過ぎると、肥満や血液中のコレステロール値が高い状態、すなわち高脂血症が生じやすくなります。そして、肥満や高脂血症を基盤に動脈硬化が進み、狭心症や心筋梗塞などの心臓病になる危険が高まります。これまでの研究で、総コレステロール値が220mg/dLを超えると、心臓病になる危険度の高くなることがわかっています。

(2) 食事の内容を見直そう！

狭心症や心筋梗塞などを予防するための食生活のポイントとして、栄養のバランスに気をつける、脂質の量や種類に注意する、食物繊維や抗酸化物質、ミネラルを十分にとる、減塩を心がける、などが挙げられます。以下に要点をまとめます。

①栄養のバランスに気をつける

- ・糖質のエネルギー比を50%以上に
- ・脂質のエネルギー比を20~25%に

②脂質の量や種類に注意 -オレイン酸に注目-

脂肪のとり過ぎに注意するとともに、脂肪の種類(質)もよく考えて摂取することが大切です。食品に含まれる脂肪は、体内で脂肪酸とグリセロールに分解されます。脂肪酸は、肉や乳製品などの動物性食品に多い飽和脂肪酸と、魚や植物性食品に多い不飽和脂肪酸に大別されます。飽和脂肪酸は、とり過ぎるとコレステロールや中性脂肪を増やし、動脈硬化の原因になります。一方、不飽和脂肪酸には、コレステロールを下げ、血液をサラサラにして動脈硬化を防ぐ働きがあります。

不飽和脂肪酸は、一価不飽和脂肪酸(オレイン酸)と多価不飽和脂肪酸(リノール酸、リノレン酸)に分けられます。脂肪酸をバランスよくとるために、飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸を3対4対3の割合でとるのがよいとされています。

なお、オレイン酸は私たちの体に最も多く含まれている脂肪でもあり、酸化しにくく、HDL(善玉)コレ

ステロールを減らさずに、LDL(悪玉)コレステロールを減らします。食物ではオリーブ油やナッツ類に多く含まれており、たとえばアーモンドに含まれている脂質の7割はオレイン酸です。アーモンドを用いたヒトでのLDLコレステロール低下作用も報告されています。(Circulation 2002; 106: 1327-1332、Am. J. Clin. Nutr. 2003; 77:1379-1384、JAMA 2003; 290:502-510)

③食物繊維を十分にとる

- ・1日20~25gを目安に

④抗酸化物質をとる

抗酸化物質とは、細胞を傷つける活性酸素から身体を守ってくれる物質を言います。赤ワインなどに含まれるポリフェノール、緑茶に含まれるカテキン、アーモンドに豊富なビタミンEなどは代表的な抗酸化物質です。

栄養科学においては、抗酸化物質が細胞膜を防御し、生活習慣病を予防して寿命を延ばすうえで重要な役割を果たしている点に注目が集まっています。

⑤ミネラルを不足なくとる

- ・カルシウム、カリウム、マグネシウムなど

⑥減塩を心がける

- ・食塩摂取量は1日6g未満に

(3) 生活習慣を見直そう！

肥満や心臓病などの生活習慣病を防ぐには、食事内容の他に、食習慣、運動、休養などの生活習慣を見直すことも大切です。次の点に注意しましょう。

- ・よく噛んでゆっくり食べる
- ・夜食や間食を控える
- ・エネルギーをとり過ぎない
- ・適度な有酸素運動をする
- ・適正な睡眠時間をとる

お知らせ

ご希望の方には日本心臓財団発行の健康ハート特別号「心臓病と食生活」を先着順に謹呈します。部数と送付先をご連絡ください。(数に限りあり)
連絡先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-12-13

大手町建物神谷町ビル7F(ヒル アンド ノウルトン ジャパン株式会社内) カリフォルニア・アーモンド協会 日本広報センター
Tel. 03-5776-7135

学校保健功労による叙勲受章おめでとうございます

平成17年春の叙勲受章者 (28名)

〈学 校 医〉

五十嵐誠祐 (群馬県)	桑原 奥 (熊本県)	齋木 秀彦 (山口県)	坂原 宏 (長野県)
島田 吉金 (愛知県)	寺山 才一 (北海道)	中里 嘉光 (東京都)	中村 穂 (青森県)
西 キヨ (和歌山県)	渡邊 勤 (岩手県)		

〈学校歯科医〉

磯部 勉 (茨城県)	伊東 了自 (広島県)	井上 一男 (大阪府)	巖 圭庫 (長崎県)
江場 浩司 (山形県)	大内 照 (宮城県)	齊藤 宏 (秋田県)	酒井惣一郎 (神奈川県)
坂本 雅夫 (福井県)	島田 清 (香川県)	清水 博 (鳥取県)	高田 恒 (滋賀県)
松上 寛 (千葉県)	村上 恵一 (愛媛県)	吉野 美夫 (静岡県)	

〈学校薬剤師〉

河村 健 (石川県)	西田 日吉 (岐阜県)	山岸 理喜 (京都府)
------------	-------------	-------------

「健康教育地域振興事業」の実施について

平成17年度から、本会の事業として標記の事業を開始し、民間企業等の2事業を地域で取り組めるようにいたしました。内容については、後述します。

この事業を本会の事業として実施することとしたのは、健康教育に熱心に取り組んでいる民間企業等の力を本会や加盟団体の活動にもっと生かすことができるしたら、少なからず健康教育の振興につながると考えたからです。今、国をあげて子どもへの学力向上が叫ばれている一方、健康教育の大切さが忘れられていくのではないかとさえ思います。

特に財政的に厳しくなっていることから、この健康教育にかかる施策は、徐々に後退することが予想されます。多くの方々の意識が乏しくなってくるという危惧感を抱かざるを得ません。「貧すれば鈍す」にならないことを祈るばかりです。

近年、多くの民間企業等が企業理念として様々な健康活動を通じ社会貢献を行なっており、これらを地域住民の視点で有益に活用することも必要になっています。いわゆる民活です。確かに民間企業も一部には、その活動を、露骨に自社製品の販売拡大を目途に広報の手段としてのみ考えているところがあるのも事実ですが、企業理念を持つ民間企業の担当者との間で、いくつかの約束事を明確にして対応すれば前向きに協力してくれます。意外にも民間企業は、学校保健会など非営利の公益団体には理解を示してくれるものです。

子どもの健康問題は、大きなものから日常的なものまで際限なくありますが、これを全て国の施策や自治体等が施策として取り組むには、予算、要員さらにはノウハウ等で限界があります。しかし今こそ、本会や地域の学校保健会の役割は、この民間企業の社会への

貢献意識を真摯に受けとめ、一緒になってエアーポケットになっている分野の健康教育の普及に努めることも大切なことではないでしょうか。国や自治体等で対応できないことを、少しでも多くの方々に理解して頂く、これも私たち保健会の務めだと思います。

*1. 大塚製薬株式会社の「大塚アカデミー公開スクールセミナー」は、熱中症の予防策について確かな実績を基に、講演会を実施するものです。販売商品との関係はありますが、企業色は可能な限り押さえています。地域の学校保健会で講演会の場を持つことで、多くの方に意外に知られていない熱中症について理解して頂こうとするもので、このための経費は、共催である本会から交付します。

「熱中症予防セミナー」の詳細は、アカデミー事務局 (TEL03-5275-6838河西まで)。

*2. 日本教育シューズ協議会が企画する出張講座「靴について考えてみませんか?」は、適切な靴選びをはじめ、児童生徒の健全な発育発達の観点から足の健康と靴の関わりについて、足の研究者などの専門の講師が地域に出向いて学校の教師や保護者等にわかりやすく解説するものです。学校保健会や学校などが企画する既存の研修会の一コマとして、また学校関係者の企画する講演会でも活用できます。講師の派遣に要する経費は、協議会が負担します。思わぬ発見をされるのではないかでしょうか。

「靴の出前講座」の詳細は、日本教育シューズ協議会 東京事務所 (TEL03-3862-8684大高まで)。

いずれの事業も暑い夏を前に、是非取り組んで欲しい事業です。

保健室必需の3冊!

「子どもの集団生活と心身の健康」

小児科臨床 **特集 第58巻 第4号**

既刊 定価：4,620円（本体4,400円+税）

- 子どもの集団保健を心と身体の両面からアプローチ。
- 教育・医療・精神・心理など各分野の第一人者による解説。
- 慢性疾患やさまざまなトラブルを抱える子どもたちのQOLを追求するポイントに言及。

日頃、子どもの健康・教育に関わる皆さんに役立つ内容となっております。

「国際化する小児保健医療」

—海外から来た子・行く子・世界の子—

小児科臨床 第58巻 増刊号

6月20日発売予定 定価：6,195円（本体5,900円+税）

言葉が通じない在日の子どもを迎えた時や、
外国に行く子どもの健康相談に応じる時などに、
必要な情報など、実用的な資料を網羅。

保育園・学校の保健室・市町村行政担当者などに必携
の一冊です。

「小児感染症の手引き」

日本版

R-Book 2003



米国小児科学会感染症委員会が編集
した小児感染症の世界標準。

〈本書の特徴〉

- 科学的な根拠に基づいた最新の感染症情報なので、保健指導や相談に有用。
- 地球上のあらゆる感染症が記載され、学校における感染症対策として出席停止・予防接種などを具体的に記述。

—「学校保健」・「思春期・小児の性感染症」の
項目も掲載されています—

学校などの保健室にぜひ備えたい一冊です。

〈書籍の概要〉

書名：R-Book 2003
—小児感染症の手引き—
判型：A5変型判
総頁数：923頁
定価：10,500円（税込）

株式会社 日本小児医事出版社 〒160-8306 東京都新宿区西新宿5-24-18 ホームページURL：[//shoni-iji.com](http://shoni-iji.com)

電話：03-5388-5195 FAX：03-5388-5193 E-mail：shoni-iji@wakodo.co.jp（編集・業務）

高校生のための「くすり教育に関する教材(冊子)」を贈呈します FAXでお申し込みください（無料）

薬物乱用防止教育の重要性が広く認知され、より一層積極的に取組まれている学校も増えてきています。一方で、最も身近な「薬物」であり、一般的に服用する薬への基礎的な教育については、これから取り組み課題といえる状況です。

そこで、自分の体に合った薬を選び、服用するために「正しい薬の使い方」を学び、自己管理の意識を高めていただくために高校生向けの小冊子を作成いたしました。薬の種類・選び方・買い方・服薬の仕方、身近な学校薬剤師やかかりつけ薬剤師の必要性が学べます。薬を処方してもらうとき、薬の飲み合わせのチェックが必要なときに役立つ「Myくすり・ノート」つきで日頃の実生活にご活用いただけます。各学校におきましては、養護教諭や学校薬剤師がご指導する際にご利用いただければ幸いです。

* * * 高校生のための、くすり教材 * * *

「高校生のためのくすりルールブック～鎮痛薬で学ぶ、正しい薬知識～」

対象：高等学校生徒

監修：杉下順一郎（薬剤師・日本学校薬剤師会会长）

望月 真弓（北里大学薬学部臨床学研究センター医薬品情報部門 教授）

企画：日本学校薬剤師会

推薦：日本学校保健会

協賛：大正製薬株式会社

* * * お申し込み方法 * * *

「くすり教材」事務局 FAX：03-3549-1685宛て、①学校名、②住所、③電話番号、④ご担当の先生のお名前、
⑤副読本の希望冊数をご記入の上、お申し込みください。数に限りがございますので、先着順で締め切らせて
いただきます。ご了承ください。各学校へのお届けは7月以降になる予定です。

お問い合わせは、電話03-3541-1058 担当：稻垣・中谷・廣瀬まで

平成17年度「学校保健用品・図書等推薦」一覧表

推薦期間 平成17年4月1日～平成18年3月31日

No.	品 目	摘 要	会 社 名
1	カワイ肝油ドロップ	保健栄養剤	河合薬業株式会社
2	イソジンうがい薬及び イソジンのどフレッシュ	口腔内及びのどの殺菌、消毒、洗浄、口臭の除去	明治製菓株式会社
3	イソジンウォッシュ	手指、皮膚の殺菌・消毒	明治製菓株式会社
4	イソジンS及びイソジン軟膏	きり傷、さし傷、すりむき傷、靴ずれ、やけど等の患部の殺菌・消毒	明治製菓株式会社
5	キシリッシュガム	むし歯予防の機能をもつキシリトールを糖原料の主体として使用したガム	明治製菓株式会社
6	明治ミルクココア	体にうれしいポリフェノール・食物繊維・テオブロミンが含まれた、カカオの風味が活きている健康志向の粉末ココア	明治製菓株式会社
7	シャボネット石鹼液	手指の殺菌消毒及び洗浄	サラヤ株式会社
8	コロロ自動うがい器	コップを使わずにうがいできる装置	サラヤ株式会社
9	アラウ、天然毛ハブラシ やわらかめ小（ウマ毛）	歯ぐきをやさしくマッサージする天然毛ハブラシ	サラヤ株式会社
10	アラウ、天然毛ハブラシ かため大（ブタ毛）	歯のエナメル質にやさしい天然毛ハブラシ	サラヤ株式会社
11	アラウ、せっけんハミガキ	植物性の無添加せっけんに天然ハーブのチカラをプラスした自然派ハミガキ	サラヤ株式会社
12	「バイゲンラックス」	プール用水、飲料水等の殺菌消毒剤	株式会社カズサ
13	「こどもハピカ」	電動付歯ブラシ	株式会社ミニマム
14	JES（呼吸・吸圧）シユーズ	上ばき・体育館用・グランド用	日本教育シユーズ協議会
15	クリーンウェット	消毒用お手拭き紙	株式会社トーヨー
16	ベースサン®	プール用、足腰洗槽用殺菌消毒剤	多木化学株式会社
17	野菜生活100	野菜果実ミックスジュース	カゴメ株式会社
18	野菜生活100きれいに赤野菜	野菜果実ミックスジュース	カゴメ株式会社
19	日産アクアチェック®シリーズ	水質検査試験紙	日産化学工業株式会社
20	ハイライト®	プール用・足腰洗槽用殺菌消毒剤	日産化学工業株式会社
21	エアーモニタ「換気予報」	揮発性化学物質などによる教室の空気汚れモニター（温度・湿度計付）	新コスマス電機株式会社
22	ネオクロール・ニューソ	プール用殺菌消毒剤	四国化成工業株式会社
23	ライオンこどもハブラシ	歯刷子（6～12才用）	ライオン株式会社
24	アルボース石鹼液	手指の殺菌・消毒・洗浄	株式会社アルボース
25	CO/CO ₂ /温度/湿度計 (IAQモニター)	室内環境管理に必要な一酸化炭素、二酸化炭素、温度、相対湿度を1台で同時測定	日本カノマックス株式会社
26	オロナインH軟膏及び オロナイン液	皮ふ疾患・外傷治療薬及び殺菌消毒薬	大塚製薬株式会社
27	ポカリスエット及び ポカリスエットステビア	水分・電解質補給（清涼飲料水）	大塚製薬株式会社
28	ホットポー	水分・電解質・ビタミン補給（粉末清涼飲料）	大塚製薬株式会社
29	エネルゲン	水分・電解質・エネルギー補給（清涼飲料水）	大塚製薬株式会社
30	アミノバリュー及び ダブルアミノバリュー	水分・電解質・アミノ酸補給（清涼飲料水）	大塚製薬株式会社
31	キシリトールガム及び キシリトールタブレット	児童生徒の口腔保健の向上を目的としたチューインガム及びタブレット	株式会社ロッテ
32	小・中・高校生用シャツ・ ブラウス	耐洗濯性に優れた制菌加工を施した形態安定シャツ	エクセル株式会社
33	日曹ハイクロンTB-200	プール用殺菌消毒剤	日本曹達株式会社

No.	品目	摘要	会社名
34	ホルムアルデヒドテストストリップ／ドクターシックハウス	室内空気中のホルムアルデヒトを検出する試験紙	関東化学株式会社
35	クレストスピンドラシ	手軽にしっかり歯垢除去できる電池式電動歯ブラシ	マックスファクター株式会社 (P&Gグループ)
36	シュガーレス・ガム及び シュガーレス・タブレット リカルデント	虫歯予防に効果のある「キシリトール」と歯の健康に必要なミネラルを補強するリカルデントを配合したシュガーレス・チューアインガム	キャドバリー・ジャパン株式会社
37	バトラーLEDイルミネーター	発光ダイオード採用により、高い機能性と操作性をもった、口腔内診療用照明器	サンスター株式会社
38	ケミフリー空気清浄機 「エアイーサー」	シックハウス症候群、化学物質過敏症等の児童生徒に効果のある空気清浄機	株式会社レモン
39	ウイスパー（多い日用）	生理用ナプキン	プロクター・アンド・ギャンブル・ファー・イースト・インク(P&G)
40	室内空気汚染検知管式測定器	教室等の空気環境検査でのホルムアルデヒト、トルエン、パラジクロベンゼン、二酸化窒素、塩素の測定	株式会社ガステック
41	らくがきこどもせっけん	体やお風呂場にお絵かきができ、かつ洗い流すことで洗浄も出来ます。	株式会社バンダイ
42	インターバランス L-92	体内の免疫バランスを整える	カルピス株式会社
43	防犯用ホイッスル“SOS・ビビ”	“児童の登下校の安全対策” 安全な脱着装置付ロングストラップ。夜は蛍光で光ります。	株式会社日本医療器研究所
44	カロリーメイト（缶）	栄養調整食品	大塚製薬株式会社

●エアーモニタ「換気予報」の斡旋販売のご案内



◆斡旋販売価格 9,500円(税別送料込)
希望小売価格 14,800円

シックハウス対策の決め手は換気です。

「換気予報」は、空気のよごれを感じて、
換気のタイミングをお知らせするので、

児童・生徒への換気教育に最適です。



学校での換気の習慣づけに「換気予報」

ご購入の
お申込方法は

①学校名②住所③電話番号④申込者名⑤「換気予報」申込台数をご記入の上、
下記あてにFAX送信または郵送してください。

財団法人 日本学校保健会 事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-3-17 虎ノ門2丁目タワー6階 FAX.03-3592-3898

お問い合わせは

商品やご注文に関するお問い合わせは、当会・事務局までお電話でどうぞ。 TEL.03-3501-2000



「足と地球の健康を考えよう」

足に合わない小さなクツや、先の細いクツを履いていると、足の指が曲がったり、爪が変形して痛んだりします。底の薄いクツを履いて硬いところで運動すると、カカトやヒザが痛くなったり、足の骨が折れたりすることもあります。通気性の悪いクツを履いていると、足が蒸れて、疲労が増したり皮膚炎になったりします。元気に運動して健康になるには、シューズはとても大切です。

履けなくなったたくさんのクツがゴミとして捨て

シューズのリサイクル

られ、地球が病気になっています。元気な地球に戻すためには、ゴミを減らすこと、もう一度使える物をリサイクルすることが大切です。

足の健康を守ってくれた「JESシューズ」をリサイクルして、地球の健康も守りましょう。

日本教育シューズ協議会

岡山市 西川原 1 丁目 11 番 6-1 号
〒703-8258 TEL. (086) 272-5463



虎ノ門 (78)

「アジアの子どもは皆元気」

本年、4月に台湾・高雄市に於いて開催された「第3回学校歯科保健アジア会議」に参加しました。第1回が2001年東京、第2回が2003年タイのアユタヤ、そして今回、台湾での会という事で、まだ歴史の浅い、歯科保健に関する国際学術会議というものです。

今回はアジア各地から18カ国の参加でした。第2次世界大戦の終結から60年、様々な国際緊張は、未だ在るもの、戦火の消えたアジア全域で子ども達の健康についての各国の情報交換と相互の交流は、平和のありがたみを感じる良い機会でした。とりわけ

最近の中台情勢にみられる反国家分裂法の問題、また、中国での反日等々、決して静かな環境とはいえない状況でしたが、とにかく、子どもの健康をいかに推進し、維持するかに関し、各国が共通して問題を取り組んでいることは、平和なくしてはありえないことで、意義深いものを感じました。台湾全国から集まった「学童口腔保健・歯磨き大会」を参観しましたが、その熱気の凄さにはやはり中華民族特有の情熱の強さにお国柄をみる思いで、興味深い場面でした。健康で伸びやかな子ども達の表情を見るにつけ、子ども達が次の世代の平和を担う健康的な大人に成長してほしいと切に感じました。

(編集委員 今村 旭)



事務局便り

5月30日に開かれた日本学校保健会の評議員会において、役員等の改選がありました。新会長には、現在、日本医師会会长でもある植松治雄氏が選考され、副会長と常務理事にも一部交替がありました。また、役員人事が全会一致で承認されました。平成17年から平成18年度(予定では平成19年5月30日まで。再任可能)の2年間にわたり、お務め頂くことになりました。植松会長をはじめ新体制の陣容には、子どもをめぐる多くの健康問題や本会の財政問題など、当面している課題の解決に大きな期待が寄せられていることを感じました。また前会長の矢野 亨氏には、本会の会長、副会長等の20年に及ぶ役員経験を生かして頂くため、会長の求めに応じて、この会の事務等に助言を行う名誉会長としてお務め頂くことも承認されました。

本会が、大正9年に財團法人として設立されて以降の80年の歩みをまとめた「八十年史」がこの3月に漸く刊行されました。大変すばらしくまと

められた大作です。一昨年以来、これを編纂するため多くの時間を割いて頂いた委員の先生や関係団体の方々のご功績とご協力に、あらためて感謝申し上げます。

一般に、年史(社史)の編纂は、それなりの歴史を持っている企業等でも、創業から節目の年に作成される場合が多いようですが、実際に編纂するとなると資料やスタッフ等において苦労されると言っています。幸い本会が滞りなく刊行できたことは、昭和61年に「六十年史」を編纂しており、これを元にして補正できることやその後の20年間の資料が散逸していなかったことがあげられます。何よりも矢野前会長をはじめとする委員の意気込み、委員個々のご記憶、すばらしいスタッフに恵まれたことなどが、大きな要因だと思います。関係の機関や団体、県立図書館等にも送付させて頂きました。今後の学校保健における健康教育の大切さを知って頂くためにも、是非とも多くの方々のご一読をお勧めします。

カワイ肝油ドロップ

発育期に欠かせないビタミンが凝縮されたカワイ肝油ドロップは、「わんぱく」を応援します。

カワイ肝油ドロップ C (医薬品)



カワイ肝油ドロップ M (医薬品)



製造 河合製薬株式会社 販売 河合薬業株式会社 東京都中野区中野6-3-5
TEL:03-3365-1156(代)

大塚製薬



抽選で10校様へ
ポカリスエット500ml
ペットボトル1ケースを
無料進呈します。

(財)日本学校保健会推薦

学校名、住所、TEL、ご担当者名、担当職、学校でのポカリスエットの活用方法を記入の上、下記「健康と料理社ポカリスエットプレゼント係」宛てにハガキでご応募ください。※当選発表は発送をもって代えさせていただきます。【応募締切】平成17年7月末日【応募に関するお問合せ】健康と料理社 TEL 012-0075 東京都千代田区三番町24林三番町ビル4F TEL 03-5275-6838／担当 河西



【商品に関するお問合せ】大塚製薬株式会社 TEL 03-3293-6111 <http://otsuka.co.jp/poc/>

歯の健康に、
キシリトールの力。

むし歯のない社会へ



厚生労働省許可 保健機能食品(特定保健用食品) (財)日本学校保健会推薦 (社)日本学校歯科医会推薦

シックハウスの
原因物質を
簡単チェック!

室内に置くだけ!

ホルムアルデヒドを
検出すると黄色に変色!

ホルムアルデヒドテストストリップ

Cica 関東化学株式会社

試薬事業本部 試薬部 TEL:(03)3663-7631

インターネットでも
商品の情報をご覧いただけます。
<http://www.kanto.co.jp/siyaku>